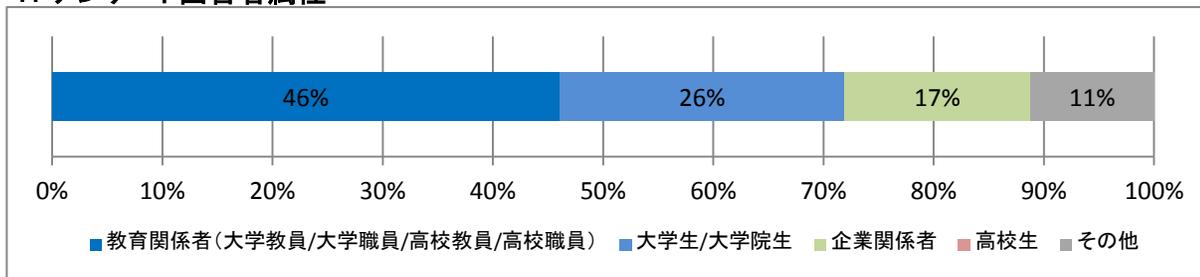


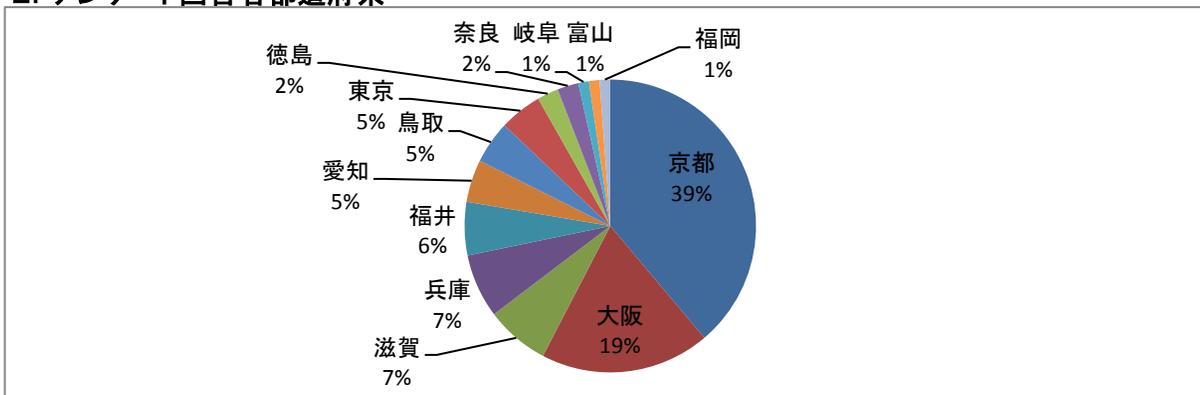
2013年11月23日グローバル人材育成推進事業西日本第1ブロック共同ワークショップ アンケート集計結果

(有効回答90)

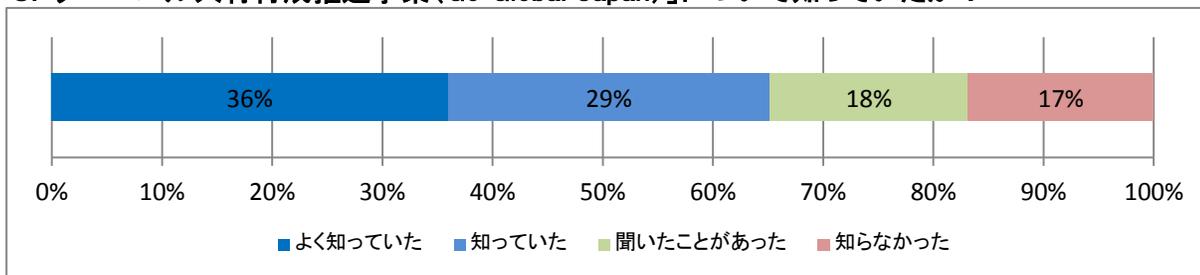
1. アンケート回答者属性



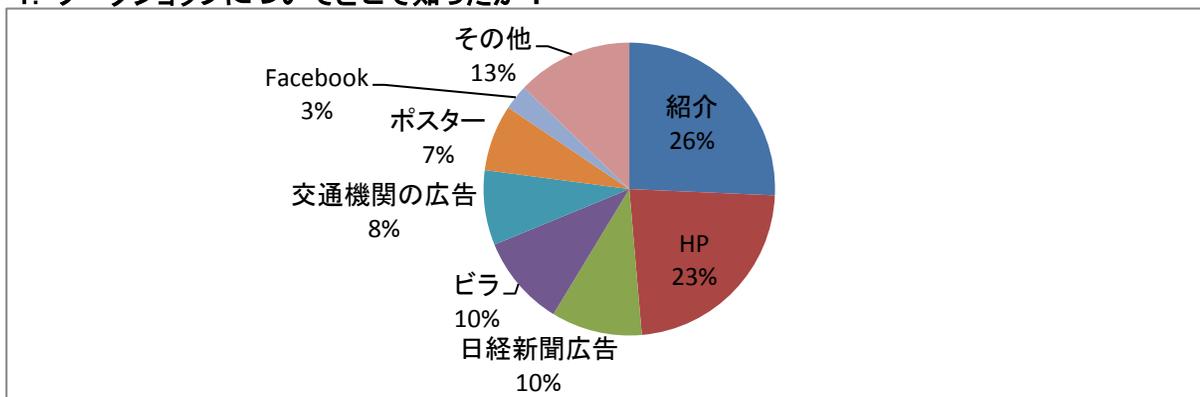
2. アンケート回答者都道府県



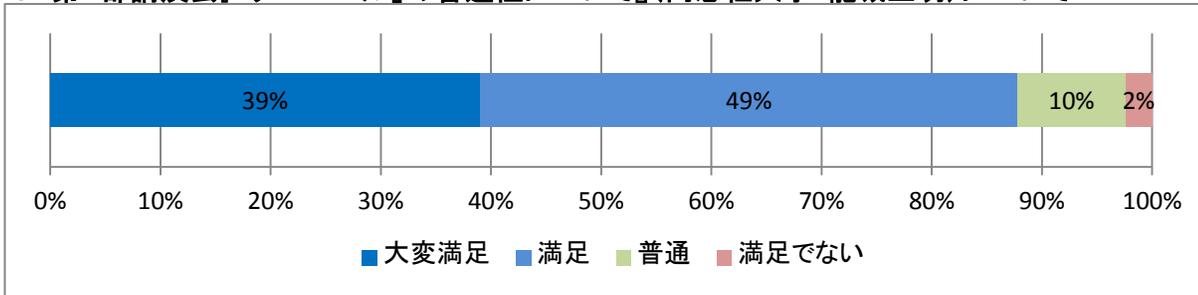
3. 「グローバル人材育成推進事業(Go Global Japan)」について知っていたか？



4. ワークショップについてどこで知ったか？



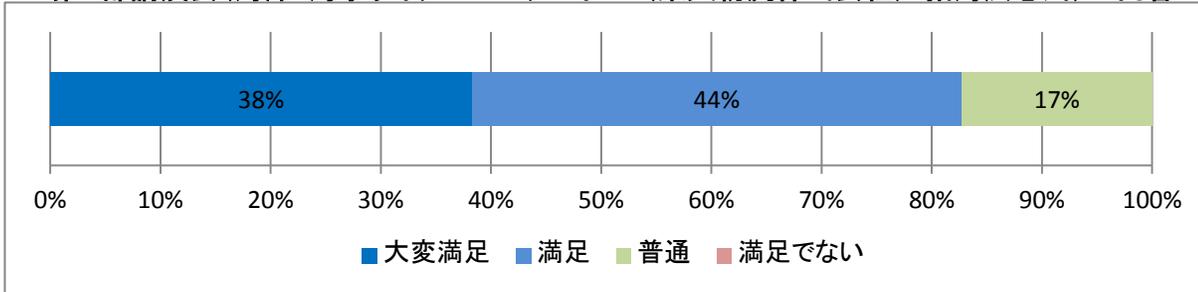
5. 第1部講演会『「グローバル」の普遍性について』(同志社大学:龍城正明)について



【コメント抜粋】

- ・グローバル化の意味するところの整理に有効であった。
- ・学生にも分かりやすい内容で非常に満足できた。
- ・プログラムを進めるにあたり、言葉の定義づけや概念をはっきりと明示し理解しやすかった。
- ・言語、宗教などGlobalizationを考える視点が大変面白かった。日本語のみで学校教育ができるという視点も非常に面白かった。
- ・非常に論点がまとめられており自分自身の考え方もまとまった気がする。帰宅後頭の整理をしたい。
- ・正しいグローバル化をしていかないと海外に飲み込まれる危険性を感じた。
- ・外(英語・外国)に目をむけるばかりでなく内(日本語・日本)についてもよく理解すべきということがよく理解できた。
- ・言語や宗教などを通して異文化理解について考えることができた。何よりも日本人としてのアイデンティティをもつことの大切さについて気づくことが出来た。
- ・「グローバル化」という概念を考え直す機会となった。
- ・「グローバル」の捉え方を「言語」を通して詳しくわかりやすく解説して頂きよくわかった。
- ・言語学的、宗教的視点もまじえて「グローバル」の考えについて奥深い話をいただけ大変良かった。

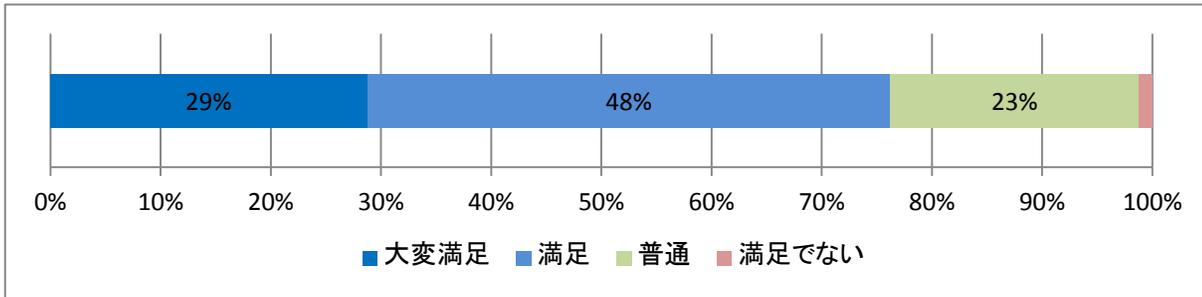
6. 第1部講演会(海洋・海事ライター&エッセイスト(楽天物流株式会社):拓海広志氏)の内容について



【コメント抜粋】

- ・企業サイドの見方を知る良い機会だった。
- ・実体験に基づく話でおもしろかっただけでなくもう少し聞きたかった。
- ・すごく幅広い活動をしている方だなと感じた。就職活動をする上でも1つのヒントになる話であった。
- ・自分のスタイルを作ることの大切さを実感。
- ・30分の講演を聴いてもっとお話を聞きたいと思った。お話の中に考え方や生き方のヒントがつまっていて興味深く聞いた。
- ・ハイコンテキスト・ローコンテキストの概念は今まで無かった。コミュニケーションとはただただ自分の持っているものを全て出してぶつかるというものではないのだと感じた。
- ・拓海先生の経験考え方に興味をそそられた。日本人はもっと冒険しないといけない。
- ・経験が本物であり説得力を感じた。
- ・未来のある子供達に夢のある話をしていく必要性を特に感じた。
- ・経験に基づいた話で学生に有意義だと思った。
- ・自分の位置と進むべき方向について海を通して楽しく聞く事が出来た。

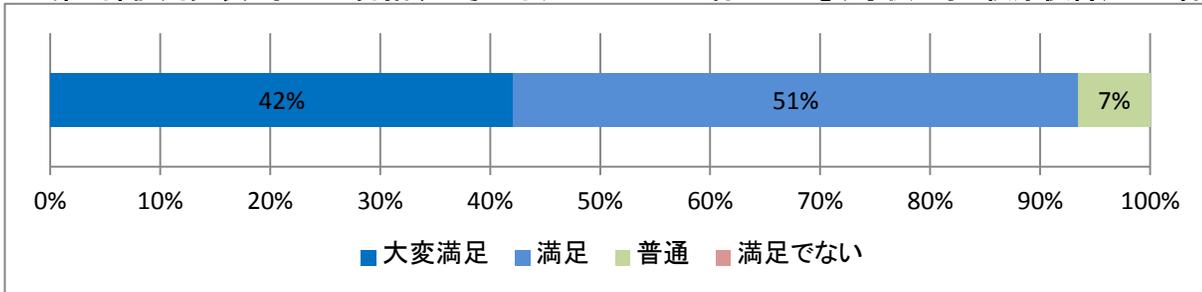
7. 第2部個別発表「学生が目指す/考えるグローバル人材とは？」(福井大学:センゲンド・ケネス・ポール)の内容について



【コメント抜粋】

- ・ウガンダのアイデンティティをしっかりと持ちながら日本との関わりをもとうとしているのが印象的。
- ・海外から見たグローバル人材についてよく述べられていたと思う。またコミュニケーション力を構築するために、今後、大学(学生)がやっていけないといけないことは交流の場(話し合いの場)を多く作る事だと思った。
- ・「外国人からみたグローバル人材」の話が面白かった。自分が伝えようとする「グローバル人材とは何か」ということが良く伝わった。自国に興味を持ってくれる人がいることに対しての嬉しさはよくわかる。
- ・アフリカからの留学生が感じるグローバル人材の話は興味深かった。
- ・英語でやってもよかった気がする。もっと伝わった気がする。
- ・大学に求める課題が参考になった。日本では日本語でほぼ生活可能なため多文化6語にふれる機会をつくることの大切さ、また、日本のことについても理解してもらおう仕組み作りが大切だと感じさせられた。
- ・外国人からの視点で見た日本の実情、課題がよくわかった。
- ・相手の国を理解することも大切だが自分のアイデンティティがあるからこそということが伝わった。
- ・留学生からみたグローバル化・グローバル人材を聞く事が出来、勉強になった。

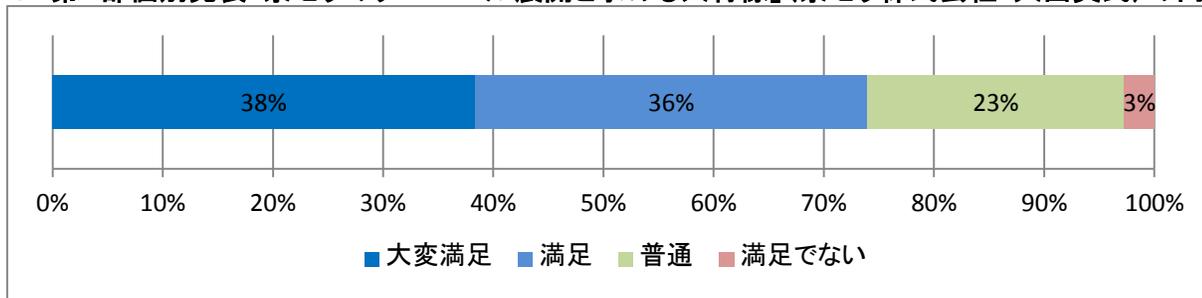
8. 第2部個別発表「学生が目指す/考えるグローバル人材とは？」(鳥取大学:萩原俊博)の内容について



【コメント抜粋】

- ・グローバルを考える上でしっかりとローカルを知ることで足元をしっかりと見つめた発表をされていた。
- ・実際の海外体験を踏まえた意見は説得力があった。
- ・世界に出て自分が気づいたことや変わったことについての話がとても分かりやすかった。私も海外旅行するたびに色々学ぶことができるので、その気持ちが良く分かった。
- ・グローバルとローカルのかけ合わせは今後重要な視点かなと思うためとても共感できた。
- ・学生レベルとは思えないプレゼン&資料だった！
- ・実体験を基にしたお話であったため説得力があった。鳥取大学での地域に即した取り組み、また国際的なプログラムが興味深かった。
- ・よくグローバル社会に対し真剣に色々なことを考えていることがよく伝わってくる。これが本当に確かなグローバル人材だと私は思う。
- ・グローバルとローカルの両脇の主軸を学生の実体験から聞く事が出来とても勉強になった。
- ・ご自身の学生生活を振り返りながら、海外での生活や日本国内でのフィールドワークの中心で感じたことや気づきをふまえて「グローバル」についての考え方の話をいただけ非常によかった。

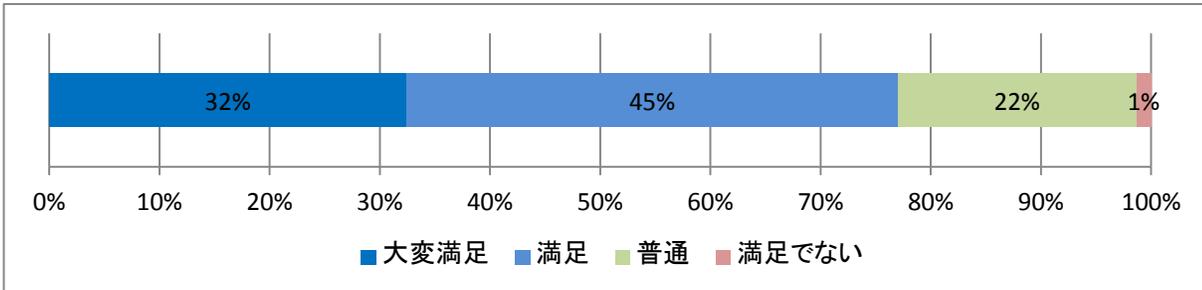
9. 第2部個別発表「京セラのグローバル展開と求める人材像」(京セラ株式会社:大西実氏)の内容について



【コメント抜粋】

- ・企業人としての考え方を伺える良い機会であった。
- ・企業からみたグローバル人材とは決して言葉ができるだけでなく個人のアイデンティティを持つことだということを改めて感じた。
- ・最後の「最近の学生はグローバルな仕事がしたいというが、グローバルな雰囲気が好きだから。少し自国である日本を勉強してから海外に出て欲しい」という言葉にとっても感動した。
- ・実際のグローバル人材、特に外国人の活用についてもっと知りたかった。
- ・さすがに京都を代表する企業。内容も非常によくわかり納得のいく説明であった。
- ・フィロソフィー教育が海外へも伝えられていることに驚いた。またやはりグローバル化に語学の力がでてこなかったのも興味深かった。
- ・京セラの発展・グローバル化の根底にあるフィロソフィー教育の話が聞いてよかった。
- ・グローバル人材とはいえ色々求める要素はあるが、かえるところは人間性であることが理解できた。
- ・哲学に裏打ちされた理念など分かりやすく説明(資料)がありよかった。
- ・求める人材像は、大学生からのみならず小・中・高・大と継続して作っていかないといけない。文科省の教育課程、全てにおいて取り組んで欲しい。
- ・企業理念の統一は外国の人たちにも受け入れられるということが驚きだった。
- ・経営理念などはとても勉強になったが、グローバル展開していくなかで実際にどのような葛藤や苦難があり、それをどう乗り越えたのかを聞きたかった。
- ・求める人材像の中に語学力を強調されていないのに共感した。

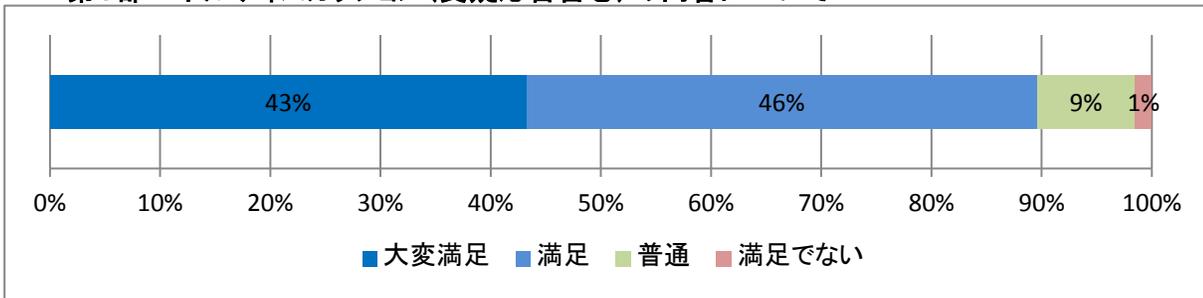
10. 第2部個別発表「企業が求めるグローバル人材とは？」(オムロン株式会社:久田浩司氏)の内容について



【コメント抜粋】

- ・リーダーとしての素質はグローバル、国内関係なく共通しているとの認識というのが印象に残った。
- ・最適化と性別までにグローバル化が関係しているのが分かりやすかった。
- ・現在多くの企業が世界進出を果たし「日本人の物の見方」だけでは、グローバル社会で生き残れないのが現実であるということを知った。やはり異なる考え方や意見を持つ人達と多く交流することが大切であると思った。
- ・会社が求める人材のことがよく伝わった。
- ・グローバル人材を普遍的に考えるきっかけとなった。
- ・外国人に対するマネジメントシステムについてもう少し知りたかった。
- ・京セラと同様でグローバルで通じる人材は日本のなかでも必要なことなのだと実感した。そうした能力を養うには他人への・関心や自身、自身の所属組織への関心を持つことが必要だと考えさせられた。
- ・無条件に曖昧なコミュニケーション力を全面的に強調する前に、コミュニケーション力の前提条件をきちんと意識する「グローバル人材」を紹介する点が良かった。
- ・単一的な価値観ではイノベーションは望めない(多様性のぶつかり合いが必要)という言葉が印象に残った。人への関心対話の大切さ相手との信頼関係を構築していくこと等、学生に対しての意識的なコメントは良かった。
- ・コミュニケーションを上手くするためには、今のうちから様々な価値観をもってコミュニケーションを行うことが大切だということが心に響いた。
- ・多様性のぶつかり合いがイノベーションの創造につながるといった理念が素晴らしいと思った。イノベーションは多様性のぶつかり合いから生まれる。多様性のなかにはジェンダーグローバルダイバシティがあること、外(他人、外国人等)に関心をもつことが大切であることが理解できた。
- ・企業側から見た日本における状況がわかり面白かった。一方でこれからの日本の未来が危惧され不安を感じた。企業が求める人材は画一的な今の義務教育がある限りなかなか存在しないと思う。

11. 第3部パネルディスカッション(質疑応答含む)の内容について



【コメント抜粋】

- ・「自分のアイデンティティ」を考えさせられた。学生さんの考え・発言を誇らしく・頼もしく感じた。
- ・短時間ではあったがそれぞれの立場からの意見・考え方が参考になった。
- ・コーディネーターが的確で深みのある議論ができたと思う。パネラーの質が高く有益な意見が多く出されたように感じた。
- ・各個人によって考え方や価値観が大きく違い面白かった。
- ・オルセン先生のお話を基調に企業の方また、学生一人ひとりの視点からグローバル人材という考えを聞け非常に良かった。
- ・オルセン先生の面白い問題提起により、学生サイドからまた企業サイドからの本音の部分の部分を聞けて有意義だった。

12ご意見・ご要望

【抜粋】

- ・グローバル人材育成は日本社会全体で取り組まなければならない課題であることを感じた。若い世代から世界に目を向ける必要性を感じさせる仕組みが必要。
- ・事業がはじまったばかりで、成果が出るのは今後になると思うが、育成のための概念ばかりを論じるのではなく具体的な取り組みや方法論について紹介頂き大学間で共有して頂きたい。
- ・自身の意見と重なり共感することも、新たに学ぶことも多くあり新鮮な時間をすごせ、良かった。企業・大学も含めたこれからの社会のあり方について考える良い機会となった。
- ・グローバル人材を生み出す所は産・官・学いずれでもないと思う。「グローバル人材」を生み出すのは他ならない自分自身だと思う。
- ・全体を通じて、グローバルを語るためには自国(日本)のことを理解することが重要だと感じた。学生・教授・企業・海外さまざまな立場から意見を出すことにより偏らない公平な考え方ができる貴重な場となった。
- ・9大学それぞれの学生、教員、企業の意見を聞け非常に勉強になった。
- ・参加してよかったと思えるワークショップだった。どの方の発言も論理的に胸に入ってきた。
- ・最後の総括にもあった「グローバル人材」の定義は重要と考える。しかしながらこれは企業(経団連)が方針を出すべきだと思う。企業担当として改めて考えさせられた。
- ・グローバル化という範囲が広く世界という視点で見られがちだが、本当は一人ひとりの生活の中、人生の中にグローバル化は必要であると思うし、それが出来ない限り世界に向けてのグローバル化は、かなり難しいと思う(特に島国の日本人は難しいかも)。メンバーに関して、学生、企業、教授と様々だったように思うがもっと広く人種を増やしてもいいのではと思う。例えばしっかりアイデンティティをもった肩書きの無い主婦とか。
- ・ワークショップ全体を通してグローバル・ローカルの2点が今後のグローバル人材を考えていく上でのキーワードなのだと感じた。ローカルな取り組みを世界に広げる取り組み事例、その中から得られ学んだことを聞く機会があれば良いと思う。
- ・とんがった人材は今日の日本では育ちにくい。家庭問題ではなく社会(経済的)問題だと思う。鳥取大学の学生が、「グローバル人材=エリート人材となっていてもうあきらめの境地」と言っていたことが印象的。